非開削技術 ▶ 現場見学会の紹介

角川　順洋
KADOKAWA　Yori　hiro
(一社)日本非開削技術協会
事務局長

はじめに

日本非開削技術協会では，毎年各会員をはじめ関係団体のご協力により非開削技術をテーマとした見学会を開催しております。しかしこの数年は現場のご都合とJSTT行事が重なるなど現場見学の開催が実現できませんでした。会員の皆様には見学会のご要望を多く頂いていたにも関わらず大変ご迷惑をおかけいたしました。

今年度からは，会員の皆さまをはじめ関係団体と協力し，出来る限り多くの非開削技術をテーマとした見学会を開催していきたいと考えております。

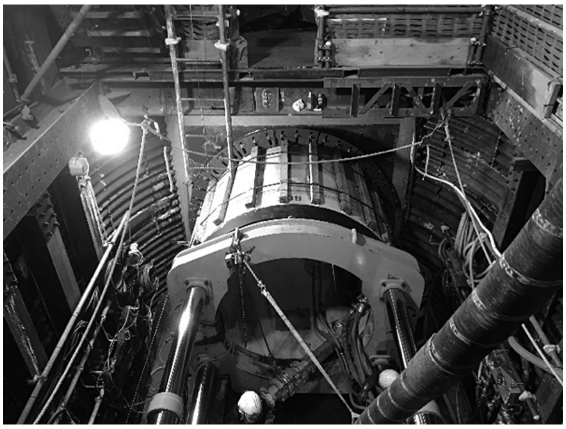
日本非開削技術協会主催の見学会の特徴

非開削技術は，開削技術と比較して掘削面積が小さいことから道路交通の支障や地域居住者，事業者への振動，騒音も少なくなるなど，工事当事者だけではなく，当事者以外にもメリットが多い工法です。このような非開削技術の現場を見学や工事担当者の話を聞くことは，非開削を担当する技術者の最新技術に直に触れる機会であり，スキルアップにつながるものと期待しております。

2019年度　第１回現場見学会について

今年度第1回目の現場見学会は，2019年5月21日千葉県船橋市で開催しました。本紙の発行スケジュールの関係で見学会開催日と本号の締め切りが間に合いませんでしたので，ここでは5月初旬に事務局で現地調査へ行った内容を少し紹介させて頂きます。

場所は千葉県船橋市習志野台6丁目付近。東葉高速鉄道および新京成電鉄の北習志野駅から徒歩15分程度の場所でした。現地は高度成長期の象徴とも言われる当時の住宅都市整備公団（現㈱都市再生機構，略称：UR都市機構）が開発した街です。閑静な住宅街で



写真－１　立坑内　掘進状況

写真－２　防音ハウス　推進管移動

工事は行われておりました。

見学した工事は，泥濃式推進工法。呼び径2200で1,000m近い距離を掘進するこのクラスの推進工事としては日本最長クラスとなる超長距離の推進工法です。また，鉄道トンネルとの最小離隔が約300mm程度の近接施工で高い精度管理も求められる現場でした。立坑スペースも道路管理者との調整の苦労も感じられ歩行者通路のう回路を公団住宅の公園緑地部分へ切り回すなど工夫されておりました。防音ハウス内はとてもきれいに整理されており，効率的で無駄のないスペースを確保しされていたのが印象的です。

個人的にもこのような推進工法の現場を見学するのは約2年ぶりです。立坑に入り，現場での掘削土やコンクリートのにおいを肌で感じ，現場見学の意義を改めて感じたところです。

当日の現場見学概要は，次号No-Dig109号にて詳しくご紹介させて頂きます。

今年度の現場見学計画について

今回JSTTとしても2年ぶりの現場見学ということもあり，4月末に参加者を募集してわずか数日で満員となるお申込みを頂きました。募集締め切り後も，会員の皆様からももっと多くの現場見学の機会が欲しいとの要望を頂きました。本年度も引き続き9月頃を目途に第2回目の現場見学を予定しております。JSTT会員の皆さまにおかれましてはぜひご参加頂ければと思います。

おわりに

現場見学会は2年ぶりとなりますが、これからも見学会は継続的に計画していきたいと思います。会員の皆さまには是非ご参加頂ければと思います。また会員の皆さまからも現場見学の提案をお待ちしております。

ご参加頂いた方からは,見学会の進行や企画内容等、本企画のご要望やご意見がございましたらぜひ事務局までお寄せください。

現場見学ご参加にあたっての注意事項

日本非開削技術協会が主催する現場見学には,現場の方々のご協力のもとで実施しております。また,土木技術経験者に限らず，ご興味のある方へなるべく多くの方に見学頂くことを考えております。つきましては以下の注意事項についてあらかじめご了承ください。

○工事ご担当者のご都合や工事進捗、スケジュール等で**急遽中止となる場合**があります。
○見学は**現地集合**でお願いします。また集合場所までの移動費用は基本的に参加者のご負担でお願いします。
○見学に際しては、**動きやすい靴**や、**服装**でお願いします。また**ヘルメット等はご自身でご用意**頂くことを基本としますが、もしご用意が出来ない場合、事務局のヘルメットをご用意します。
○現場見学の様子は機関誌「**No-Dig Today**」に掲載します。**見学者の写真**が含まれる場合がございますので、予めご了承ください。